



RUNNER



◆ 目 次 ◆

今日のRUNNER

ツキノワグマ.....	2
活動の現場.....	4
放野に向けての取り組み.....	6
蚊とダニから感染する病気.....	8

徒然ボランティア日記.....	10
足輪Project始動!!.....	11
2012年度活動報告	
・2013年度活動予定.....	12
誘拐しないで.....	15
インフォメーション.....	16



今日のRUNNER



第十六走者：ツキノワグマ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

異常出沒、再び

神奈川県では平成 24 年度もツキノワグマの目撃・痕跡件数が発見されていることから、平成 22 年度に引き続いてツキノワグマに関する報告が相次いでいます。しかも、平成 24 年度の報告数は、一昨年より倍近くでした (表 1)。

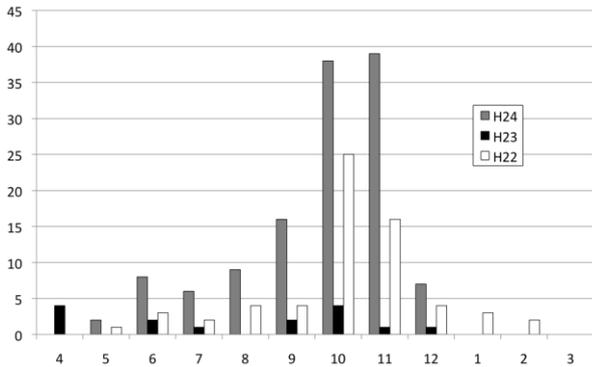


図 1: 月別目撃・痕跡件数 (平成 22~24 年度)

神奈川県のツキノワグマ

神奈川県のツキノワグマは、生息数が約 30 頭程度と非常に少なく、神奈川県レッドデータブックでは絶滅危惧種とされています。平成 18~20、22 年度に実施された調査から、丹沢山地内 40 個体分の遺伝情報が得られましたが、希少種であることには変わりありません。それなのになぜ、目撃件数や痕跡件数が増えているのでしょうか。

ツキノワグマの生態

ツキノワグマは 6~7 月に交尾を行ない、冬眠中の 2 月ごろ 1~2 頭の子を出産、4 月頃冬眠から醒めて活動を開始します。子グマを連れた母グマを除くと、ツキノワグマは単独で生活しています。季節に応じた食物を探し、秋の終わりに冬眠場所を決めるために動き回ります。ツキノワグマの行動圏は、30~50km²/10~30km² (オス/メス) 程

度ですが、まれに 100km²/50km² を超えることがあります。

6~7 月、交尾の刺激により排卵が起こります。卵は受精後発生を始めますが、すぐに着床せずに一度休止します。秋季に十分な食物を摂ってはじめて着床し、冬眠中に産みます。

冬眠中のツキノワグマは、飲まず食わずで生活するため、10~11 月頃に冬眠準備を行ないます。この時期には栄養価の高い堅果類 (ミズナラ、クリ、コナラ、ブナなどのドングリ) が採れる時期ですが、これらドングリの収穫量がツキノワグマの行動圏の広狭を左右すると考えられています。ツキノワグマは早朝や夕暮れ時を活動のピークとした昼行性で、夜間はあまり活動せずに寝ていると考えられています。



図 2: ツキノワグマの生活環 (山口県のツキノワグマ保護管理マニュアル)

人里への出沒

ツキノワグマが人里へ出沒する要因は、堅果類 (ドングリ) の不作、生ゴミや放置果実といった誘引物など、食料を求めての移動圏の拡大が考えられます。

○図鑑○ NO.16

日本のクマ

- ・ツキノワグマ *Ursus thibetanus*
ニホンツキノワグマ *U. T. japonicus*
- ・ヒグマ *Ursus arctos*
エゾヒグマ *U. A. lasiotus*

クマ類は優れた嗅覚・聴覚を持つ、国内で最大級の陸上動物です。春先から夏にかけては体重が減少しますが、晩夏から秋に堅果類（ドングリ）などのエサが豊富になると体重が回復します。行動範囲はエサの量により拡大・縮小すると考えられています。

・大きさ（成獣）：体長／体重

ツキノワグマ：110~150cm／80~120kg

ヒグマ：200~230cm／150~250kg

・食性

春～夏：新芽、新葉、木の実（堅果類、漿果類）、ササ、タケなど 夏：アリ、ハチなどの昆虫類、クロモジ、果実類など 秋：堅果類（ミズナラ、コナラ、ブナ、クリなど）、ミズキ、漿果類（カキ、アズキナシ、ウラジロノキ）

・行動範囲

オス：30~50km²,まれに 100km²

メス：10~30km²,まれに 50km²

被害状況と捕獲状況

平成 24 年度、神奈川県内でのツキノワグマによる被害状況として、人身被害の報告はなく、農作物被害等では以下の事項が報告されています。

- ・柿の木の枝折れ、食害（伊勢原市）
- ・栗の木の枝折れ、食害（山北町）
- ・リンゴの木の枝折れ、食害（相模原市）
- ・養蜂箱の損傷（山北町、相模原市など）

捕獲状況は 7 頭が報告されていて、いずれも学習放獣を行なっています。

表 1：平成 24 年度の捕獲状況

年月日	場所	捕獲個体	捕獲後の措置
H24.8.29	山北町皆瀬川	オス、80kg	学習放獣
H24.9.9	伊勢原市上粕屋	メス、46kg	同上
H24.9.29	伊勢原市子易	オス、86kg	同上
H24.10.18	伊勢原市子易	メス、55kg	同上
H24.11.2	相模原市緑区小淵	メス、50kg	同上
H24.11.10	相模原市緑区青根	オス、94kg	同上
H24.11.17	南足柄市千津島	オス、13kg	同上
計7頭			

まとめ

ツキノワグマが人里へ出没する要因は、ドングリの不作、中山間地域の人口減少や高齢化による耕作放棄地の上昇、生ゴミや放置果実など食料を

求めた移動圏の拡大などが考えられます。

山の中でドングリが不作のとき、エサを求めて行動圏を拡大したツキノワグマが人里へ出没することがあります。人里においては過疎化や高齢化により耕作放棄地が増加したり、生ゴミや放置果実などの食料が多く、クマを始めとした野生動物にとって良いエサ場となります。

人里へ出没したツキノワグマへの対応として、学習放獣（ベアドッグ、爆竹や空砲など）を利用して再出没の防止策を行ないますがそれだけでは十分とは言えません。誘引物（放置果実や堆肥、生ゴミなど）の削減や管理の徹底、クマの情報の確認、草むらや藪を刈り払い視認性を良くするなど有効と考えられます。人間主体に考えて動物を敵視するのではなく、人と動物とが共に住みよい環境を作っていくにはどうすればいいかを考えていくべきだと思います。

参考資料

「ツキノワグマに関する講演会」神奈川県自然環境保全センター

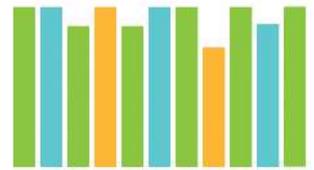
「クマ類出没対応マニュアル」環境省

「白山の自然誌 32 ツキノワグマの生態」石川県白山自然保護センター



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



大掃除と講演会など 報告

昨年12月8日、冷たい風が吹く中晴天に恵まれて毎年恒例の傷病舎大掃除を行いました。普段はできない所の掃除を行うということで、網戸やブラインド、換気扇といった細かい場所からフライングケージの上に1年間に積もった落ち葉を片付けるなど、みんなで手際よく片付けていきました。

掃除の後にはこれまた恒例の豚汁大会。疲れた体に料理部隊の生越さん・黒谷さん・安井さんが作ってくれた温かい豚汁をみんなで頂きました。今井さんからの沢山のミカンや遊佐さんからのリンゴもあり、デザートまでついて和気あいあいとなりました。

皆様、また来年もよろしくお願ひします。



13:10からは救護の会のフクロウチームよりフクロウ繁殖調査の報告会がありました。まずはフクロウについてどんな生き物なのか、その生態についての説明がありました。続いて、観察の様子の報告です。ボランティアお手製の巣箱をかけ、中にカメラを設置します。カメラは、観察の際につなげ中の様子をうかがえます。

1年目の2010年にはフクロウが巣づくりをした形跡はなかったのですが、2011年には2羽のヒナがかえりまた今年も2羽のヒナが見られたとの事。かわいらしいヒナの映像が見られたことはとても貴重でした。巣立った後、巣箱内の食痕を調べたところネズミや昆虫、コジュケイなどだったそうです。観察チームは巣立ったヒナを巣箱の近くで見るとは出来なかったそうですが、フクロウは近くでチームを見ていたかもしれませぬ。

(2010年より丹沢の緑を育む集い実行委員会のボランティア団体活動助成金を受け始めました。この調査も今年で期間満了となりました。)

引き続き13:40からは、日本鳥類保護連盟の藤井幹氏による鳥類標識調査(=野鳥に足輪をつけて行動範囲や生存期間を調べる調査)についての講演会が行われました。調査のメリットとして、双眼鏡で見ただけではわからない細かな事も捕獲して間近で見初めてわかる事があるというお話はなるほどと思いました。(例:ヒヨドリの雌雄の大きさの違い。アオジの性別の判定が思いの外難しい。など)

「希少種も普通種も同じ命、すべての鳥を差別せずに傷つけないように努力している」

「調査に対する反対意見も大切。監視の目がある方が調査をする人も誠実に行動するはず」

というお話は藤井さんの野鳥に対する真摯な思いが垣間見られ、特に印象に残りました。

救護の会でも今後足輪を使ったプロジェクトが始まりますので、今回の講演内容を大いに参考に成果に繋がればと思います。

最後に15:00から「飼養OBOG会」と題して、これまで短期や長期、一般ボランティアとして野生動物の飼養に関わって体験した感想を話し合いました。

「それぞれ個性があって面白い」「エサの好みがある」「心が癒される」というものから、「エサ代がかかる」「もともと健康な個体ではないので、取り扱いに慎重」「亡くなったとき、精神的につらい」というものまで、さまざまな体験談を語り合いました。今回お話ししたかたたち以外にも、多くのボランティアさんがいるので、「その方たちも交えて色々なお話を聞きたい」ということで、意見が一致しました。

今後もこのような場を増やして色々なお話を聞いて、情報を増やしていきたいです。



藤井幹氏による講演会の様子



飼養OBOG会の様子

探鳥会 (2012.12.15) 報告

今回の探鳥会は泉の森・相模原貯水池へ行ってきました。天気予報では午後から雨の予報だったので心配していましたが、午前中はなんとかもってきて泉の森では雨にも降られずたくさんの野鳥を観察することができました。ここはいろいろな環境があるので池にはキンクロハジロやホシハジロ等のカモ類がいたり、森ではツグミやシメ等といった冬鳥に会う事ができました。

相模原貯水池に着く頃には雨も降ってきて、傘をさしながらの鳥見でした。カモ類は少々少なかったですがオシドリやオカヨシガモ等に会う事ができました。この貯水池は毎年冬になるとカモたちがよく訪れます。周りのちょっとした林にも冬鳥たちがやってきます。来年はどんなカモや冬鳥たちが来てくれるでしょうか？今から楽しみです！

探鳥会 (2013.2.23) 報告

今回の探鳥会は宮ヶ瀬湖の早戸川林道という所へ行ってきました！

天気も良く、鳥見にはばっちりの気候でした。今回の参加者はスタッフも含めて13名。初めて参加してくださった方もたくさんいらっしゃいました。中には鳥見をするのも初めてという方もいらっしゃって、最初の探鳥会が救護の会での良いのだろうかと思心ドキドキしてました(笑)林道を歩いているとまだ雪が残っている部分もあり、春はもう少し先かなあなどと思いながら歩いていました。

今回、観察できた野鳥は全部で23種！もちろん目的のベニマシコやウソやマヒワも間近で観察することができました。参加者の方からの感想で「みんなが一つになって、動いた！・飛んだ！と鳥探しをするのは楽しかった」や「鳥の世界にはまりそう」等のお声を頂き嬉しい限りです！

宮ヶ瀬湖のこの林道には個人的に何度か訪れていて、今年の冬は割と冬鳥が多いのかなあ感じました(あくまで個人的に！)。

特にウソは多かったように思います。冬は落葉樹の葉が落ちるので鳥見にはもってこいの季節です。みなさんも来年の冬は赤い鳥に会いに足を運んでみてはいかがでしょうか？



新鳥小屋建設 のお知らせ



現在、育った小鳥のヒナやけがの治った小鳥の飛ぶ練習を主に「山田ハウス」で行っていたのですが、山田ハウスは木製のため長い年月とともに土台部分などが朽ちてきています。そこで、山田ハウスが壊れる前に新しく小鳥の飛行訓練用の小屋を作ることになりました。新しく作るなら現在のハウスより広くしたいという希望もあり作業にとりかかりました。

小鳥たちのために、毎週日曜日午前9時から12時まで作業しています。

放野に向けての取り組み

保護された動物達が順調に回復したら放野することになります。保護期間が短ければ特別なことはせず、そのまま放す事ができますが、長期間保護されていた場合は放野へ向けての準備が必要になります。

はじめに

保護された動物が放野に至るまでの期間は個体ごとの状態によって様々です。早いものなら保護された当日に放せる事もありますが、数ヶ月かかる事もあります。保護されてから2~3週間くらいの間には放せるのであれば特別な事はせずに放野できる場合が多いと思いますが、長期間保護されていた場合には野生復帰へ向けてのリハビリやトレーニングが必要になってきます。また、その方法は動物種やそれぞれの場合により変わってきます。今回はケースごとの取り組みを紹介したいと思います。

哺乳類の場合

哺乳類を長期間保護していると人に馴れてしまう事があります。特に授乳期の幼獣が保護された場合は育てているうちにかなり多くの個体が馴れてしまい、人に警戒心を示さなくなってしまう。そのような場合は、人馴れを解消するための教育をする事もあります。

成獣の場合はそこまで人馴れするケースは少ないです。しかし、室内で餌を与えられて過ごす時間が長ければ長いほど、気温の差に適応しづらくなり、また、餌を自分で探さなければならない野生の生活へはすぐに適応できないのではないかと思います。そのため、哺乳類を放野する際は、屋外で飼育する期間を作るなどして、環境の変化に慣らしてから放野する事が多いです。



タヌキの幼獣です。まだ授乳中の個体であったため、成長後も人馴れが激しかったです。センターの敷地内で放野したのですが、その後もしばらくは人前に姿を見せていました。人に寄ってこないように見かけたら追い払うようにしていると、徐々に姿を見せる事が減っていき、最終的には見かけなくなりました。



放野前に屋外のケージで飼育中のタヌキです。外の環境に慣れさせるためしばらくの間屋外のケージに出してから放す事が多いです。

鳥類の場合

鳥類の場合も哺乳類と同様、保護期間が長期に至る場合の人馴れや、室内飼育後の野外の環境への適応に関する問題は同じです。ただ、鳥類の場合、人馴れに関しては哺乳類ほど問題にならないように感じています。逆に室内から野外へ出す時には、哺乳類よりも問題が起こるケースが多かったです。例えば、狭いケージから広い場所へ移すと、自力で餌を探せない個体がいったり、気温の変化に対応できず弱ってしまったり、という事がありました。

また、渡り鳥の場合は放野のタイミングが限られるため、時期を逃すと次のシーズンまで待たなければなりません。長期の保護はしないに越したことはないのですが、タイミングを早まると悪い結果になってしまう事もあるので、その判断は難しい点です。

鳥類が哺乳類と大きく異なる点は、飛行するという事です。長期間狭いケージで飼育していると筋力が落ちてしまいますし、羽を傷めてしまったりもします。そうなれば当然飛行能力は低下します。特に猛禽類等の狩りをする種にとっては、飛行能力の低下は致命的になりかねませんので、放野前にはトレーニングが必要になります。また、ガード付けて羽を傷めないようにする工夫もあります(前号参照)。しかし、人工飼育下では羽を傷めてしまうケースも多いです。その場合は新しい羽の生え変わりを待つことになりますが、もし個体とサイズの合う傷みのない抜けた羽があれば継ぎ羽という方法で補うこともできます。しかし、なかなか継ぎ羽用の羽を確保するのは難し

く、実施できるケースは非常に少なかったです。



尾羽が傷んでいるチョウゲンボウ



傷んだ尾羽を根元の方で切ります。



継羽用の羽です。羽軸の中に竹ひご等を入れて補強します。



先ほどの羽をチョウゲンボウに装着しました。接着剤等で固定します。



建設中の小鳥用屋外ケージです。外の環境に慣らしつつ飛行のための訓練をしてから放野します。大型の猛禽類などはこれでは十分な飛行訓練はできませんし、かえって羽を痛めてしまいます。なので、鷹匠の技術に応用した飛行や狩猟の訓練を実施することもあります。

まとめ

以上、かなり簡単ではありますが放野に向けての取り組みを紹介しました。今回紹介した事以外にも様々な取り組みを行っていますが、紙面で全てを伝えるのは難しいのでこれで終わりたいと思います。ただ、個人的にはリハビリが必要なほどの長期の保護はできる限り避けるべきだと考えています。保護が長期間に渡ればそれだけ野生復帰へ向けての準備も大変になってきますし、野生復帰自体も難しくなってしまうからです。幼獣・幼鳥が保護された場合は仕方ないのですが、成獣・成鳥の場合はなるべく早く放すというのが基本ではないかと思っています。そのためには傷病鳥獣の状態をしっかりと把握し、適切な処置・治療を行う事が大切であり、それは獣医師が野生動物救護に関わる大きな意義であると考えています。もちろん、リハビリが必要なケースも多々あります。しかし、リハビリをしなくても野生復帰できるくらい早く回復させるというのが獣医師の腕の見せ所だと思っています。

参考文献

野生動物救護の会特別公演会概要版

特集！！

蚊とダニから感染する病気

近年、ダニから感染する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が国内で初報告されました。

ここでは、ダニから感染する病気の他、蚊から感染する病気についても簡単に取り上げます。



重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

2009年から中国で発生し、2011年に初めて原因ウイルスが判明した、マダニから感染する病気です。日本では、2012年秋に亡くなられた患者（海外渡航歴なし）で初めてSFTSと診断されました。SFTSのウイルスに感染すると、発熱、消化器症状（食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛）、頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、出血症状（紫斑、下血）が出現し、致死率は10%を超えます。

中国からの報告では、マダニ（フタトゲチマダニ、オウシマダニ）からSFTSのウイルスが検出され

ており、SFTSのウイルスを持つマダニに咬まれることによりSFTSのウイルスに感染すると言われています。マダニは日本全国にも広く生息しているため、注意が必要ですが、詳細は現在研究中です。

ダニに咬まれないために

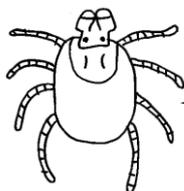
草むらや藪など、ダニが生息する場所に入るときは、以下のようにして気をつけましょう。

- ・ 長袖、長ズボンなどで肌の露出を少なくする
- ・ 直接草むらや地面に座らない、衣服を置かない
- ・ 防虫スプレーを利用する
- ・ 野外作業後はすぐに体のダニをチェックする

ダニの種類

一言で「ダニ」といっても、世の中には大きく分けて2種類の「ダニ」がいます。SFTSのウイルスを持つのは「1. マダニの仲間」であり、「2. イエダニの仲間」ではありません。

1. マダニの仲間



大きい！
(2~30mm)

硬い殻と
大きな顎を持つ

主に草むらや藪
などにいる

血液を吸うと更に大きくなる（雌成ダニでは100倍以上に膨れる）

2. イエダニの仲間



小さい！
(0.2~1mm)

透明に近くて
毛むくじやら

家の中などにいる

アレルギーの原因
の一つ

雌成ダニはその後、卵を産みます

卵

雌成ダニ



蚊から感染する病気

～日本で発生していない病気も多いけど、地球温暖化の影響で蚊の分布が拡大して今後やってくる？～



1. デング熱

分布 熱帯、亜熱帯地方で多く、全世界で年間約 1 億人が発症しています。日本国内での感染はありませんが、海外で感染し帰国後に発症する例が年々増加傾向にあり、2010 年は 244 例でした。

症状 突然の発熱、頭痛、関節痛、発疹などです。

2. マラリア

分布 WHO によると、年間感染者は 3～5 億人、死者は 150～270 万人で、その大部分が熱帯アフリカに住む 5 歳以下の子供です。日本国内での感染はありませんが、海外で感染し、帰国後に発症することが毎年 70 例前後あります。

症状 発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などです。熱帯熱マラリアで重症化すると、脳炎、腎不全などを起こして死に至ります。

3. 日本脳炎

分布 日本では 1950 年代までは小児を中心に毎年数千人の患者が発生し、1992 年以降は予防接種の普及により、毎年千人以下に減少しています。アジア、東南アジア、ニューギニアで発生しています。

症状 感染しても発症しないことが多いですが、小児や高齢者では発症することが多く、発熱、脳炎の症状が出ます。致命率は 35% と高く、生存した患者の約 2/3 に後遺症が残る怖い病気です。

4. ウエストナイル熱

分布 アフリカ、ヨーロッパ、西アジアで発生しており、1999 年にはアメリカ合衆国でも発生が見られました。日本での発生はありません。

症状 感染しても症状が出ないことが多いですが、発症すると発熱、インフルエンザの様な症状、発疹、頭痛などが出ます。

ダニから感染する病気

～日本でも毎年発生し、感染部位にダニの「刺し口」が認められることが多い～



1. ツツガムシ病

分布 日本では、北海道と沖縄を除く全国で、秋～冬に毎年 400 例前後発生が見られます。

症状 発熱、紅斑、悪寒、全身の痛み、筋肉痛などです。

2. 日本紅斑熱

分布 1984 年、徳島で発見され、命名されました。沖縄を除く関東以南で、夏に毎年 130 例前後発生が見られます。

症状 発熱、関節痛、筋肉痛、食欲不振が起こり、米粒大、大豆大の発疹が生じ、全身に広がります。

3. ライム病

分布 日本でも本州中部以北、特に北海道で毎年発生が見られます。

症状 遊走性紅斑（ダニ刺咬部を中心に、紅斑が広がっていく）が特徴的な症状です。その他に、インフルエンザの様な症状、関節炎などが見られます。

4. Q 熱

分布 オーストラリアのと畜場で流行した原因不明の熱（不明熱＝Query fever）として発見されたのが名前の由来です。日本でも毎年、数例発生が見られます。なお、ダニ以外からの感染経路も考えられています。

症状 最も一般的な症状はインフルエンザの様な症状で、肺炎を起こすこともあります。

※参考文献

- ・国立感染症研究所 感染症情報センター ホームページ
- ・勝部泰次 (2009) : 獣医公衆衛生学 (第二版), 学窓社, 東京.
- ・藤田紘一郎, 柴野利彦 (2004) : ウイルス・バニック 感染症という身近な恐怖, 数研出版, 東京.

徒然 ボランティア日記

その1

RUNNER 読者の皆さま、初めまして。神奈川県自然環境保全センターでボランティア登録をして早ウン年。縁あって今号から、文章を書かせていただく事になりました。保全センターで活動するボランティアの日常をユル〜くご紹介していこうと思います。



2013年2月0日 (☂→✱)

朝から降っていた雨がいつの間にか雪に。私の車はノーマルタイヤなので雪が降ると少々焦る。無事に帰れるだろうか。。積もる前に帰っちゃおうかなあなどと邪なことを考えていたら受付に段ボール箱を抱えたお客さまが。中をのぞくと何やら大きな黒い鳥がバタバタと居心地悪そうにいらっしやる。しかもかなり目つきが悪い。図鑑で調べると”クロトウゾクカモメ”という水鳥らしい。珍しい動物に会えるとちょっと（イヤかなり）嬉しい。脚の付け根に大きな裂傷があったので獣医師の鶴飼さんに縫合してもらって取り合えず一安心。しばらく保温箱で様子を見ることに。はやく元気になると良いね。



鶴飼さんと
クロトウゾクカモメ

”クロトウゾクカモメ”の名前の由来がそのまままでビックリ。他の鳥が捕った魚を盗賊のように奪うんだそうです。悪いヤツです。

2013年2月△日(✱)

今日は午前中トビ 12羽とノスリ 3羽の足環の確認作業。順番に網で捕まえて記録と照合しつつ、ついでに伸びた爪の先端を爪切りでパチリ。野山で狩りをしていないので放っておくと伸びすぎて自分の体を傷つける事もあるそう。せっかくなのでトビを抱えた人間の記念写真もパチリ。(あ、遊んでる訳ではないですよ(° 〰 °))

2013年3月□日(✱)

昨年からいるオオルリのオスの色が徐々に綺麗な青に変わってきた。大人の男に成長しつつあるんだね。それにしても、動物の世界ではオスよりメスの容姿が地味って事が多々有るけど、不公平感が否めない。別館にいるキビタキのカップル(?)を見るにつけ思ってしまう。男の子はすごく綺麗なのに、何故女の子はこんなに地味なんだい？まるでスズメみたいじゃないか…(スズメに失礼?)。



2013年3月◇日(✱→☘)

交通事故で保護されているタヌキの治療のお手伝い。職員さんがケージからタヌキくんを引っ張り出し、私が口輪をしようとして正面から近づくとシャ〜ッと勢いよくオシッコをするではないですか！まるでマラーイオンの噴水みたいに。咄嗟に避けたけど多少はズボンに付いたかな？アナタの為にやっているのにこの仕打ちですか。。(T T)などと思ってしまうが、まあ、よくあることなので気にしない気にしない。無事に治療を済ませ、湯たんぽと夕ご飯をあげて本日の業務終了。家に帰ると我家の愛犬2匹と愛猫2匹が物凄い形相で私の足元の臭いを嗅ぐので、慌ててタヌキのオシッコ臭のするズボンを脱ぎ捨てたのでした。ちなみセンターには更衣室もありますが私は面倒なのでいつも家に帰ってから着替えているのです。今度からちゃんとセンターで着替えようかな？



次号では春から夏のセンターの様子を紹介します。

足環Project始動!!

◎野生動物救護の現状について

神奈川県自然環境保全センター（以下保全センター）では、神奈川県全域からケガや病気などが原因で運ばれてくる野生動物（鳥類・哺乳類）の救護活動を行っています。

救護件数は年間約 600 件前後で、その中の約 3 割程度がリハビリ後に野生復帰（放鳥・放獣）しています。

これまで保全センターでは救護された野生動物たちが野生復帰をした後、どのように生きているかほとんど把握されていませんでした。

◎足環の目的

野生復帰をする野鳥に足環を付けて放し、その鳥を見た、もしくは再救護など市民の皆様からの情報を得ることで、放鳥した救護個体とその後、どのくらいの行動域を持ち、どれくらい生きてい

るかを知る手掛かりになり、野鳥の生態をより深く理解することができます。そして、これらのことを今後の救護活動に活用し、より良いリハビリ方法の検討などにつなげていきたいと考えています。

※足環の情報は野生動物救護の会のホームページで随時お知らせしていきます。

◎対象となる鳥の種類

猛禽類・・・トビ、ノスリ、オオタカ、チョウゲンボウ、ツミ など

水鳥類・・・アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギ、カルガモ、マガモ、ウミネコ、セグロカモメ など

◎上記の足環を付けた鳥を見かけたら下記まで、ご連絡下さい。



*読み方は上から「A0」と読みます。

見かけたときの連絡先・・・

NPO 法人 野生動物救護の会 事務局 神奈川県秦野市戸川 1086-4 TEL 0463-75-1830

e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護公園部 野生生物課 TEL 046-248-6682

e-mail : yasei_birds@pref.kanagawa.jp



☆なお、メールでのお知らせの際には件名に「足環の件」とお入れ下さい。

野生動物救護の会は、野生動物救護のボランティア活動に取り組みながら、「一頭一羽でも多くの野生復帰」をめざしています。ご協力よろしくお願い致します。

-2012 年度活動報告・2013 年度活動予定-

野生動物救護の会が「野生動物救護の会 かながわ」として発足してから7年、NPO 法人野生動物救護の会となってからは5年となります。救護の会の活動は会員の皆様方の協力により、内容が少しずつ充実してきていると思います。

これまで活動報告と活動予定は6月の総会で提示していました。しかし、総会の議論の場で活動報告や予定を見てすぐではなかなか議論に参加しにくいものと思います。そこで6月の総会の前にこの会報誌の中で提示をして皆様にじっくり読んでいただくことにしました。総会では活発に意見を述べていただき、この会の活動をますます発展させていければと考えています。

本来ならば、前年度の総括や次年度の方針のもとに報告や予定が示されるべきなので、できるだけそうなるように今後努力していきたいと思います。

この活動報告や活動予定の訂正や追加があるときは、総会の時に説明していきます。

2012 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動報告

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティア	通年	自然環境保全センター
短期、長期の野生動物の飼養	通年	各自自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会	6/2～6/3	自然環境保全センター
ボランティア講習会修了式	9/29	

3. 主に会員を対象とした啓発活動

羽根標本等の作製	随時	自然環境保全センター
特別講演会 「カラスから学ぶ」松田道生氏	6/23	自然環境保全センター
講演会 フクロウ調査報告会 (安井、平、黒谷)	12/8	
「鳥に標識をする」藤井幹氏		
探鳥会 カモの仲間を求めて	12/15	泉の森、相模原沈澱池
冬の野鳥	2/23	早戸川林道

4. 主に市民を対象とした啓発活動

東京バードフェスティバル展示参加	4/21～4/22	東京港野鳥公園
子ども・若者と自然のフォーラム展示参加	10/21	県立青少年センター
秦野市民まつり展示参加	11/3	秦野市立運動公園
ジャパンバードフェスティバル2012展示参加	11/3～11/4	我孫子市手賀沼親水公園
東京農業大学で講演「ボランティア論」	4/24	農大厚木キャンパス
ABiKo ～Asia Birds Convention～にて渡辺理事長講演	11/4	我孫子市アビクオーレ
環境教育 放課後教室	5/18 6/22	厚木市立相川小学校
傷病舎案内 横浜市鶴見区各中学校支援学級合同観察会	9/6	自然環境保全センター
厚木市立玉川小学校3～5年生	11/2	
第2回夏休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」	8/25	自然環境保全センター
第2回春休み子ども体験教室「わくわく野鳥探検隊」	3/23	

5. 情報発信的活動

会報誌RUNNER VOL.14発行	9/15	厚木市サポートセンタ
会報誌RUNNER VOL.15発行	12/24	ー
ホームページの運営	通年	野生動物救護の会事務局
会員への情報メール発信	通年	局

6. 調査・観光的な活動

秦野市立図書館衝突調査	4/27 5/25 6/20 7/27 8/31 9/28 10/26 11/16 3/29	秦野市立図書館
秦野市立図書館周辺ラインセンス（探鳥会）	11/20 3/29	
「衝突防止方法と衝突痕からみたバードストライク調査の結果・考察と来期調査のお願い」提出	4/27	
衝突防止のための塗料塗布打ち合わせ	6/29	
「秦野市立図書館衝突調査及び防止対策結果報告」提出	11/1	
フクロウ食痕調査（青木副園長指導）	7/10	七沢森林公園
足環プロジェクト勉強会（加藤ななえ氏指導）	9/26	NPO 法人バードリサーチ
野鳥観察舎見学と足環プロジェクト勉強会 佐藤達夫氏指導	10/19 2/14	チ 行徳野鳥観察舎 自然環境保全センター
足環をつけた野鳥 放野第1号（フクロウ）		

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会出席	4/7	自然環境保全センター
----------------------	-----	------------

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	6/23	自然環境保全センター
傷病舎大掃除及び豚汁大会 長期短期里親懇談会	12/8	自然環境保全センター

9. その他の活動

新フライングケージ建設開始	1/26～	自然環境保全センター
---------------	-------	------------

野生動物救護の会に関連する出来事

「特集 完全保存版 ツバメ前線北上中！ツバメの巣ができるまで」文・写真 佐藤信敏		BIRDER 5月号
サギ基金（台風のためサギコロニーが崩壊し、ヒナが計31羽保護される）6月		自然環境保全センター
日本テレビ「未来シアター」打ち合わせ 6/7		自然環境保全センター

2013年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動予定

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティア	通年	自然環境保全センター	
短期、長期の野生動物の飼養	通年	各自自宅	

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア養成講習会	年2回（6/2 6/16）	自然環境保全センター	
ボランティア養成講習会修了式	年1回		

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	年数回	近隣各所	
講演会	1～2回	自然環境保全センター	
公開放野	随時	近隣各所	
スキルアップ勉強会	年数回	自然環境保全センター	
羽根標本等の標本作成	年数回	自然環境保全センター	

4. 主に市民を対象とした啓発活動

各種イベントへの参加（東京バードフェスティバル、ジャパンバードフェスティバル、動物フェスティバル、厚木環境フェア、秦野市民まつり、その他のイベント）	各期日	各イベント会場	
各種要請による講演（東京農業大学など）	随時	各会場	
環境教育 学校からの要請による環境教育 夏休み子ども体験教室（野生動物を学ぶ） 春休み子ども体験教室（わくわく野鳥探検隊）	随時 夏休み 春休み	各学校等 自然環境保全センター 自然環境保全センター	
傷病舎見学の案内	随時	自然環境保全センター	
絵本製作	未定	県内動物病院に配布	

5. 情報発信的活動

会報誌RUNNERの発行	年数回	厚木市サポートセンター	
ホームページの運営 会員への情報発信	通年	野生動物救護の会事務局	

6. 調査・観察的な活動

秦野市立図書館衝突調査	月1回程度	秦野市立図書館	
樹洞性哺乳類・鳥類調査	通年	自然環境保全センター	
足環プロジェクト	通年	自然環境保全センター	

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4月	自然環境保全センター	
その他必要に応じた活動	随時	未定	

8. 運営的活動

NPO法人 野生動物救護の会定期総会	6月	自然環境保全センター	
傷病舎大掃除及び豚汁大会	12月	自然環境保全センター	

誘拐しないで!



多くのヒナが巣立ちをするこれからの季節、道端で上手く飛べないでいるヒナに出会うことがあるかもしれません。でも、むやみに拾ったり、保護したりはしないで下さい。巣立ったばかりのヒナは、上手く飛べません。飛ぶ練習をしているのです。車や、猫などが危害を加えそうだったら、近くの木などの高い場所に移して、そっとその場を去って下さい。

そして、もしヒナが怪我をしていてどうしても助けたいと思ったら各都道府県に連絡をし、指示に従ってください。許可なく野鳥を飼うことは法律で禁止されています。

ちなみに神奈川県では、自然環境保全センター、横浜市・川崎市の動物園、一部の動物病院が受け入れてくれます。



インフォメーション

講習会

◆野生動物救護ボランティア講習会

▽日時:6/2(日)・16(日) 9:00~17:00 ▽場所:自然環境保全センター
▽毎年恒例!今年も新たに野生動物救護ボランティアさんを募集し、野生動物救護に関する知識を学んでいただきます。今年度より1日の講習会を2回行います。裏方ボランティアスタッフも募集中です!

総会

◆野生動物救護の会 通常総会 / 講演会

▽日時:6/30(日) 13:00~総会 14:00~講演会 ▽場所:自然環境保全センター
▽前半は当会の通常総会。後半は日本野鳥の会 神奈川支部 支部長であり、鳥のみならず自然界にとっても造詣の深い鈴木茂也さんに、講演をしていただきます。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時:毎月最終金曜日 → 今後の調査日は4/26、5/31、6/28 ▽場所:秦野市立図書館
▽野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

講演

◆東京農業大学にて 講義

▽日時:4月23日(火) ▽農学部 バイオセラピー学科 1年生 ボランティア論の授業にて

その他

◆2013年 夏季野生動物保護(臨床医学・看護)セミナー (in 北海道)

▽日時:7/30(火)~8月27日(火)のうち7泊8日 ▽申込締切り:6/7(必着)
▽主催・問合せ・申込み:NPO 法人道東動物・自然研究所/道東野生動物保護センター
〒086-1151 北海道中標津郡中標津町川西 8-23 TEL/FAX:(0153)72-1333
e-mail:info@morita-ah.com URL:<http://morita-ah.com/wildlife-education.html>
▽今年で20回目を迎えるセミナー開催のお知らせをいただきました。夏の北海道の大自然の中で野生動物のレスキューを中心に、動物&自然施設での研修や自然観察を通して自然界全体のこと学べるユニークな環境獣医学教育セミナーです。興味のある方は上記までお問い合わせください。

引っ越す方は...

◆新年度を迎え、転勤や進学などで引っ越しをされる方も多くいらっしゃると思います。住所変更の予定がある方は、救護の会事務局までご一報ください!登録を変更させていただきます。

詳細は当会ホームページをご覧ください

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2013年4月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙絵:松本恵 今日のRUNNER:松本卓巳 活動の現場:平沼亜矢子
放野に向けての取り組み:福富潤 蚊とダニから感染する病気:小松美絵
徒然ボランティア日記:神崎さつき 足環 Project:渡辺優子
2012年活動報告・2013年活動予定:佐藤幸太郎 ヒナを拾わないで:三輪早見
インフォメーション:神崎さつき